

祖父母による家事・育児動向の基礎的分析 －3世代世帯家族を対象に－

平井 太規
立教大学コミュニティ福祉学部

2021/11/18

本研究の目的

(1) 3世代同居世帯における祖父母の家事・育児時間算出

- ・3世代同居世帯において祖父母がどの程度、家事・育児を実践しているのか？
- ・父および母の家事・育児時間との比較
- ・核家族世帯との比較

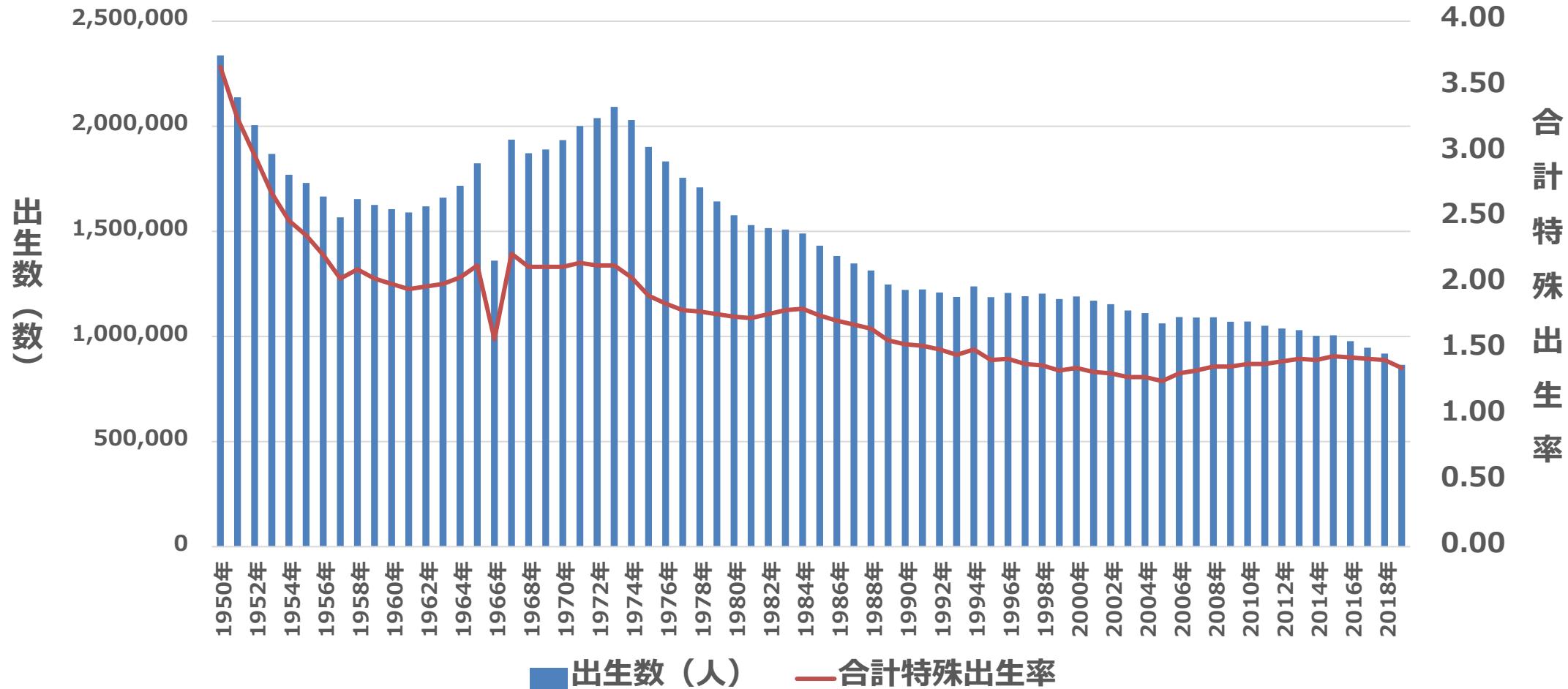
(2) 祖父母の家事・育児の規定要因分析

- ・どのような条件であれば、より祖父母は家事・育児を実践するのか？
- ・多変量解析による分析

(3) 祖父母の家事・育児が妻の負担軽減に寄与するかの検証

- ・3世代同居世帯において、祖父母の家事・育児は父母の負担につながるのか？
- ・多変量解析による分析

少子化の現況 (1)



資料：「人口動態統計」より作成

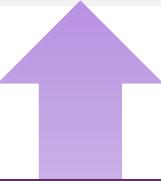
少子化の現況（2）

結婚コーホート	0人	1人	2人	3人以上	完結出生児数（人）
	% %				
1958-1962	3.0	11.0	57.0	28.9	2.19
1963-1967	3.1	9.1	55.4	32.4	2.23
1968-1972	2.7	9.6	57.8	29.8	2.19
1973-1977	3.1	9.3	56.4	31.3	2.21
1978-1982	3.7	9.8	53.6	32.9	2.21
1983-1987	3.4	8.9	53.2	34.4	2.23
1988-1990	5.6	11.7	56.0	26.7	2.09
1991-1995	6.4	15.9	56.2	21.6	1.96
1996-2000	6.2	18.6	54.1	21.1	1.94

資料：「第15回出生動向基本調査 結果の概要」より作成

少子化の現況・要因

- ①社会全体の子ども数の減少
- ②各年における新生児数の減少
- ③1人の女性が生涯に出生する平均子ども数の減少
- ④夫婦が（最終的に）もつ子ども数の減少



- ・未婚化、晩婚化で出生の機会を喪失しやすい
- ・経済的余裕がないゆえに、子どもを産めない／増やせない
- ・**育児ネットワーク／サポート資源の減少に伴い、育児不安が増大**
- etc

夫婦の子ども数の減少

完結出生児数（夫婦の子ども数）の減少：

1980年代結婚コーホートまでは、結婚すると2～3人の子どもが生まれていたが、近年のコーホートでは、「2人目の壁」が顕著になっている

経済的な制約などによって、子ども数を増やせない／子どもを持てないなどがあるが、**育児ネットワークの弱体化（松田 2008）**も重要な要因

3世代同居家族推進・支援

育児ネットワークの強化推進策？

* 祖父母は重要な家事・育児のサポート資源（北村 2015）

『一億総活躍社会の実現に向けて緊急に実施すべき対策－成長と分配の好循環の形成に向けて－』（2015年）

⇒「家族の支え合いにより子育てしやすい環境を整備するため、三世代同居・近居の環境を整備する。」

（https://www.kantei.go.jp/jp/singi/ichiokusoukatsuyaku/kinkyu_taisaku/hontai.pdf）3ページ

『ニッポン一億総活躍プラン』（2018年）

⇒「子育て中の親の孤立感や負担感が大きいことが、妊娠、出産、子育ての制約になっていることがある。大家族で、世代間で支え合うライフスタイルを選択肢として広げるため、三世代同居・近居をしやすい環境づくりを推進する。」（<https://www.kantei.go.jp/jp/singi/ichiokusoukatsuyaku/pdf/plan1.pdf>）14ページ

3世代同居家族推進政策の概要

(1) 3世代同居に対応した良質な木造住宅等の整備への支援

(2) 3世代同居など複数世帯の同居の実現のためのリフォーム工事への支援

(3) 3世代同居に対応した住宅リフォームを行った場合の所得税の税額控除

* (3) については、2019年6月30日までが適用期限

その他、自治体によっては独自に3世代同居のための引っ越し代、住宅取得費などを支援するところもある。

先行研究（1）

同居していると、祖父母からのサポートを受けやすいのか？

同居もしくは近居であると、遠居の家族よりも祖父母のサポートを受けやすい
(佐々木ほか 2017；佐々木 2018)



女性（妻）の就業継続、育児不安解消などにも寄与する

同居していると、「親代わりとなって孫を育てる」「親が用事をすます間、孫の面倒を見る」可能性が、30分以上離れて暮らしている居住形態よりも高まる
(安藤 2017)

育児支援のニーズが発生することで同居が推進されることはたしかにあり得るが、実際に子育て中であることが同居の規定要因にはなっていない（大和 2017）。

ただ、上記のように同居していることで確かに祖父母のサポートは受けやすい。

先行研究（2）

祖父母の誰がどの程度、家事や育児のサポートをしているのか？

孫への子育て参加の頻度は、①母方祖母②父方祖母③母方祖父④父方祖父の順に高い

（八重樫ほか 2003）

祖父よりも祖母の方が、サポートに携わっている



海外の動向では、夫方祖父母よりも妻方祖父母の方が孫の育児により関わる
(Pollet, Nettle and Nelissen 2006; Tiimse and Liefbroer 2013)

日本では「祖父よりも祖母」、海外では「夫方よりも妻方」がより孫の育児に関わっている

使用するデータ

「社会生活基本調査」匿名データ：2006年

* 2001年調査よりA票・B票、2種類の調査票が導入されている。本研究ではA票のデータを使用。

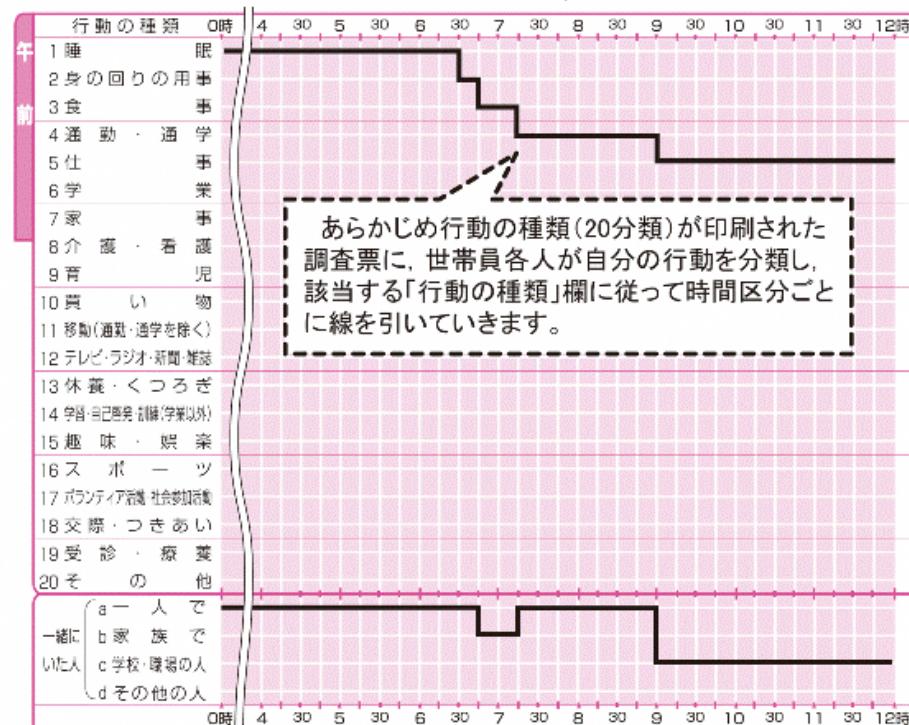
調査目的	<ul style="list-style-type: none">・国民の生活時間の配分および自由時間における活動を調査する・国民の社会生活の実態を明らかにする
調査時期	<ul style="list-style-type: none">・10月上旬～中旬のある期間のうち連続する2日間
調査対象	<ul style="list-style-type: none">・指定された調査区内に居住する世帯から選定された、約4000世帯内にふだん住んでいる10歳以上の男女
抽出方法	<ul style="list-style-type: none">・1次抽出：都道府県ごとに人口に基づく確率比例抽出により抽出・2次抽出：等確率無作為抽出により、各調査区から10世帯前後を抽出

* 政府統計匿名データは「行政機関等が行う統計調査によって集められた調査票情報を、特定の個人又は法人その他の団体の識別（他の情報との照合による識別を含む）ができないように加工したもの」
(<https://www.nstac.go.jp/services/anonymity.html>) である

「社会生活基本調査」調査票A／Bの差異

〈調査票A〉

【プリコード方式の調査票の記入例】



〈調査票B〉

【アフターフード方式の調査票の記入例】

資料：総務省統計局『平成23年社会生活基本調査 調査票Aと調査票Bの生活時間欄の違いについて』
(<https://www.stat.go.jp/data/shakai/2011/time/index.html>)

分析対象

	全サンプル	3世代同居家族				核家族	
		祖父	祖母	父	母	父	母
世帯数	5万5484			490		4138	
サンプル数	27万2861			それぞれ975		それぞれ8244	

*以下の条件を満たしている世帯を分析対象とした

<3世代同居家族・核家族共通>

- ①子どもが1人以上おり、末子が6歳未満
- ②父母がともに健在で子どもや祖父母らと同居している
- ③曜日は平日、土日双方を含む

<3世代同居家族>

- ④祖父母がともに健在で、父母や子（祖父母からみると孫）と同居している

家事・育児時間（分）

	3世代同居家族				核家族	
	祖父	祖母	父	母	父	母
平均値	34.55	230.15	45.52	341.43	60.34	380.94
標準偏差	84.29	176.48	101.80	216.66	116.42	210.05
最小値	0	0	0	0	0	0
最大値	630	900	705	1035	930	1140
N	975	975	975	975	8244	8244

- ①祖母は家事・育児をかなり実践しているが、祖父はあまりしていない
- ②母の家事・育児時間が長く父が短いのは、核家族も3世代同居世帯も同様の構図
- ③3世代同居家族であっても、母の家事・育児時間は核家族とほとんど変わらない

祖父：家事・育児時間の規定要因（1）

*トービット分析

	モデル1	モデル2	モデル3	モデル4
(切片)	-256.497 **	-260.253 **	-287.023 **	-310.743 **
年齢（基準：60歳未満）				
60-64歳	27.272	29.347	29.779	32.200
65-69歳	94.944 **	106.613 **	109.359 **	103.558 *
70-74歳	115.804 **	128.742 **	134.101 **	123.903 *
75歳以上	168.300 **	177.433 **	183.193 **	167.122
学歴（基準：中学校）				
高校	20.654	24.165	27.500	21.835
短大・高専・大学以上	34.443 **	130.668 **	137.548 **	121.435 **
末子年齢（基準：0歳）				
1-2歳		8.755	8.156	2.623
3-5歳		-33.717	-47.154	-33.966
子ども数（基準：1人）				
2人		6.491	2.873	-1.106
3人以上		23.833	25.227	23.764

祖父：家事・育児時間の規定要因 (2)

*トービット分析

同居形態

妻方同居ダミー 37.664 18.175

曜日

平日ダミー -10.420 -6.952

父母就労状況

共働きダミー 45.914* 19.861

祖母 - 家事・育児時間 0.270**

父 - 家事・育児時間 0.157+

母 - 家事・育児時間 -0.053

調整済R二乗 0.075 0.083 0.094 0.135

-2対数尤度 3838.591 3834.261 3828.045 3797.199

N 975

祖母：家事・育児時間の規定要因 (1)

*重回帰分析

	モデル1	モデル2	モデル3	モデル4
(定数)	222.851**	225.400**	182.349**	213.373**
年齢 (基準：60歳未満)				
60-64歳	-13.439	0.045	-1.669	-2.390
65-69歳	27.406+	43.279**	43.424**	34.710*
70-74歳	35.327+	45.622*	51.506**	40.858*
75歳以上	-2.932	5.787	11.506	-4.473
学歴 (基準：中学校)				
高校	-2.485	-4.226	-0.280	1.177
短大・高専・大学以上	35.565	31.125	42.238+	31.897
末子年齢 (基準：0歳)				
1-2歳		-1.393	-1.128	-11.521
3-5歳		-53.443**	-66.027**	-74.859**
子ども数 (基準：1人)				
2人		26.699*	20.258	25.036+
3人以上		9.754	9.945	15.387

祖母：家事・育児時間の規定要因 (2)

*重回帰分析

同居形態

妻方同居ダミー

63.781** **62.126****

曜日

平日ダミー

22.008* **26.686***

父母就労状況

共働きダミー

49.714** **32.391****

祖父 - 家事・育児時間

0.354**

父 - 家事・育児時間

0.101+

母 - 家事・育児時間

-0.089**

調整済R二乗

0.006 **0.024** **0.056** **0.096**

F値

1.971+ **3.389**** **5.477**** **7.437****

N

975

祖父母による家事・育児時間の分析結果まとめ

(1) 祖父の家事・育児の規定要因

- ①概ね高齢であるほど、家事・育児時間は長くなる
- ②高学歴であるほど、家事・育児時間は長くなる
- ③末子年齢、子ども数、同居形態、曜日、父母の就労状況では有意になっていない
- ④祖母と父の家事・育児時間が長いほど、祖父の時間も長くなる

(2) 祖母の家事・育児の規定要因

- ①60歳代後半、70歳代前半で家事・育児時間は長くなる
- ②学歴による効果はみられない
- ③子どもが成長するにつれて家事・育児時間は短くなり、子ども数では1人に比べ2人だと長くなる
(ただし、3人以上では有意ではない)
- ④妻方同居であるほど、平日であるほど、父母が共働きであるほど家事・育児時間は長くなる
- ⑤祖父と父の家事・育児時間が長いほど祖母も長くなり、母の時間が長いほど祖母は短くなる

祖父母の家事・育児時間が妻の負担軽減に 与える影響 (1) *重回帰分析

	モデル1	モデル2	モデル3	モデル4
(定数)	366.961 **	311.757 **	420.663 **	445.207 **
年齢 (基準: 30歳未満)				
30-34歳		-7.671	27.800	13.788
35-39歳		-0.531	67.960 **	58.073 **
40歳以上		-4.853	87.131 **	44.510 +
学歴 (基準: 中学校)				
高校		54.848 +	45.185	72.090 *
短大・高専		54.421 +	53.724 +	87.797 **
大学以上		129.261 **	80.991 *	100.657 **
未子年齢 (基準: 0歳)				
1-2歳			-99.697 **	-89.284 **
3-5歳			-223.945 **	-172.861 **
子ども数 (基準: 1人)				
2人			14.936	27.900 +
3人以上			18.706	26.924

祖父母の家事・育児時間が妻の負担軽減に 与える影響 (2) *重回帰分析

同居形態

妻方同居ダミー 7.138

曜日

平日ダミー 4.364

父母就労状況

共働きダミー -145.138**

祖父 - 家事・育児時間 -0.065 -0.070 -0.089 -0.050

祖母 - 家事・育児時間 -0.101* -0.098* -0.163** -0.109**

調整済R二乗 0.006 0.015 0.134 0.255

F値 4.047* 2.801** 13.563** 19.877**

N 975

結論

(1) 3世代同居世帯における祖父母の家事・育児時間

- ・祖父は父同様、ほとんど家事や育児をしない
- ・祖母は相当時間数、家事や育児に携わり、貴重なサポート資源となっている

(2) 祖父母の家事・育児時間の規定要因

- ・祖父母ともに、年齢が比較的高い段階にあるほど家事・育児を行う
- ・祖父は社会経済的資源の高さによって家事・育児時間が異なるが、祖母は子どもの年齢や子ど�数などの子どもの成長過程によって異なっていく
- ・祖父は祖母らの家事・育児時間はあまりに長いとサポートをする。ただし、祖父が家事・育児時間が長くなっても、祖母や母らの求める水準に達していないためからか、祖母らの負担が増加する

(3) 祖父母の家事・育児が妻の負担軽減に与える影響

- ・核家族世帯と比較しても、3世代同居世帯の妻の家事・育児時間はとても長い。
- ・ただし、祖父母のサポートによって多少の負担軽減につながる。

参考文献

- 安藤究、2017、『祖父母であること 戦後日本の人口・家族変動のなかで』名古屋大学出版会
- 北村安樹子、2015、「祖父母による孫育て支援の実態と意識：祖父母にとっての孫育ての意味」『ライフデザインレポート』215: 15-24.
- 松田茂樹、2008、『何が育児を支えるのかー中庸なネットワークの強さ』勁草書房.
- Pollet,T., Nettle,D. and Nelissen,M.,2006, Contact Frequencies between Grandparents and Grandchildren in a Modern Society:Estimates of the Impact of Paternity Uncertainty, *Journal of Culture and Psychology*,4,203-214.
- 佐々木尚之・高濱裕子・北村琴美・木村文香、2017、「歩行開始期の子をもつ親と祖父母のダイアドデータの分析：育児支援頻度および回答不一致の要因」『発達心理学研究』28(1) 35-45.
- 佐々木尚之、2018、「三世代同居・近居の因果効果の推定」佐々木尚之・高濱裕子編『三世代の親子関係：マッチングデータによる実証研究』風間書房、pp.121-140.
- Tiiomese,F. and Liefbroer,A.C.,2013, Child Care and Child Births:The Role of Grandparents in the Netherlands, *Journal of Marriage and Family*,75(2)、403-421.
- 八重樫牧子・江草安彦・李永喜・小河孝則・渡邊貴子、2003、「祖父母の子育て参加が母親の子育てに与える影響」『川崎医療福祉学会誌』13 (2) : 233-245.
- 大和礼子、2017、『オトナ親子の同居・近居・援助 夫婦の個人化と性別分業の間』学文社.

謝辞・付記

- ・ご清聴ありがとうございました。
- ・本報告は「平成30年度一橋大学経済研究所共同利用・共同研究拠点政府統計匿名データ利用推進プログラム」からの助成を受けた研究成果の一部です。また、各分析結果は、統計法に基づき、国立大学法人一橋大学を通じて、独立行政法人統計センターから「社会生活基本調査」に関する匿名データの提供を受けた上で、独自に作成・加工した統計データです。
- ・新型コロナウイルスの収束が未だ見通せない中、本研究集会の準備・運営にあたられた先生方とスタッフの皆様に感謝申し上げます。